

大谷教師塾 教員養成ナビゲーター

大谷大学
教職支援センター

第126号

2020. 11. 1

教育の未来を考えることの重要性

大谷大学 教職支援センター長 教育学部 教育学科教授 森田 裕之

いま世界は大きく変わろうとしています。インターネット，なかでもSNSの普及，経済と文化のグローバル化の進展，世界各地で台頭してきた排他的なナショナリズム，地球環境の不可逆的な破壊，新たな感染症のパンデミックによる脅威……。このようなダイナミックな状況のなかで，教育だけはいまのまま変わらないと考えるのは，あまりにも素朴すぎるでしょう。

そもそも教育が始まったのは，近代からだといわれています。「人間は理性的動物である」という人間についての古典的な定義に典型的に見られる人間／動物という二項対立は，古くからある伝統的な思考法です。近代になると，それまで小さな大人とみなされ，特別扱いされていなかった子どもを，大人とは異なる未熟な存在として特別視する意識が芽生え，人間／動物という二項対立にもとづき，大人／子どもという二項対立が新たな思考法として登場します。このとき，日常生活のなかに紛れて行われていた教育という営みが，日常生活から浮上し立ち現れ可視化されることとなります。したがって，教育というのは，人類の歴史の起源から一貫して作動してきた普遍的なものではなく，人間／動物，大人／子どもという一連の二項対立を思考法とすることによってはじめて誕生した近代の産物であり，そのようにすぐれて近代的な営みとして今日に至るまで制度化され組織化されてきたのです。

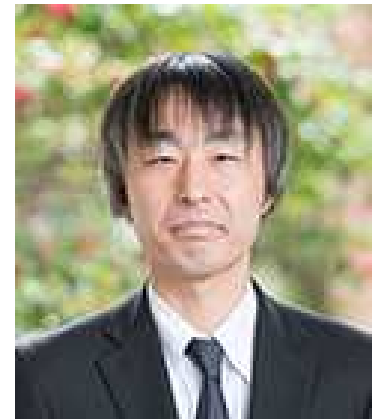
ところが，21世紀に入り，膨大なビッグデータを背景として，AIに関わる研究の爆発的な発展が引き起こされようとしています。『スーパーインテリジェンス』(2014年)の著者で哲学者のボストロム(Bostrom, N.)の考えにしたがうと，こうしたAI研究によって近い将来，人間の知能に匹敵し，さらには凌駕するかもしれないAIが出現するという未来予想も，あながち荒唐無稽で幼稚な空想として切り捨てることは難しいでしょう。

このようにAIが著しく進化すれば，私たちは人間／AIというもう一つの二項対立を思考法として手にすることを強いられます。人間は，人間／動物，人間／AIという二重の二項対立を思考法とし

て定義づけられなければならない。人間の概念は，その変更を余儀なくされるにちがいません。そして，人間の概念が変更されれば，教育のあり方も変容しないわけにはいきません。それというのも，新たな人間の概念に準拠して，大人／子どもという二項対立が思考法として定立されることになり，そのことで教育の目標となる大人の概念が変わらざるを得ないからです。

だが，変化は上に言及した抽象度の高い概念レベルばかりではなく，具体的な教育をめぐる実践レベルにまで及ぶことになるのは，ほぼ確実でしょう。知識や技術の伝達としての教育が，進化したAIによって代替される事態が，近い将来に到来することが見込まれるからです。そうなれば，そもそも人間による教育は必要なのでしょうか。もとより，人間による教育は，近代になって登場した歴史的な営みなのだから，21世紀のどこかで消滅したとしても何の不思議もありません。とはいえ，かりに必要だとして，AIによる教育と協働する人間による教育とは，どのような営みなのでしょうか。このように，急速に進化しているAIは，私たちに教育のあり方の問い直しを迫ろうとしています。

21世紀に生き，教育という営みに携わる私たち(この私たちには，教師を目指す皆さんも含まれます)はいまや，次のような未来への問いに真摯に向き合う必要があるのではないのでしょうか。「人間による教育はどこへ向かうのか」という問いです。こう問いかけることはひるがえって，私たちのいまの教育実践を深めることにつながるはずで



《先生になるぞ！》

《担任の先生の一言から》

教育学科

道海 綾花

引っ込み思案だった私を変えてくれたのは小学校の担任の先生だった。勉強も運動も苦手で、何も取り柄がないと感じていた私に先生が、「あなたの笑顔は周りを明るくする素敵な笑顔だよ」と言ってくれて、私にも自信が持てるものができた。その言葉を信じて、どんな時でも笑顔を絶やさないように心がけることで、たくさんの友達もでき、自信をもって人前に出ることができるようになった。私も子どもの個性や可能性を引き出すことができ、人に影響を与えられるような先生になりたい。

《心の距離が近く熱い先生に》

教育学科

山元 晶絵

子どもの心に寄り添える先生になる。私は、小学校6年生、高校3年生の時の担任の先生と出会ったことで、学校生活が楽しくなり自分自身が成長することができた。当時の私は悩むことが多く、自分の決断にはいつも自信がなかった。しかし、2人の先生は、私に正面から向き合い、時には「信じているよ」と、私が自立できるよう見守ってくれた。

心の距離が近く熱い先生に私はなる。そして、たくさんの楽しさと成長することの面白さを子どもたちに伝えたい。

《先生は格好良い職業》

教育学科

高穂 純那

1回生の時、初めて小学校のボランティアに参加した。久しぶりの小学校は何もかもが想像以上に小さくて驚いた。あんなに大きく見えた6年生も、今の私からすれば12歳のまだ幼い子どもたちである。そんな子どもたちを相手に行う授業では、先生たちの見えない工夫が施されており、とても衝撃を受けた。小学校教員はこんなにも格好良い職業なのかと感じた。まだまだ自分の技術は未熟である。だが、是非小学校教諭になり、子どもと共に学びたいと考えている。そのため、今たくさん学んでいこうと思う。

《子どもの笑顔、目の輝きを体験して》

教育学科

松本 咲千花

「私は絶対教師になる」そう志したのは2回生で参加した長浜のキッズキャンパスで出会った子どもたちのおかげだ。傘袋ロケットを上手に飛ばせて喜んでいる子どもの笑顔、シャボン玉を膨らますことができなくて泣いてしまう子どもができるようになった時の目の輝き、そのような出来事を体験することができた私は幸せそのものだった。子どもたちに夢を与えてもらった私は子どもたちに恩返しをしたい。面白い授業、楽しい学級経営、生徒指導上の家庭の問題など様々な方向から子どもたちに働きかけ、一人ひとりの子どもたちを大切に、自主的に学習する楽しさを学ばせ、笑顔を見守ることができる教師になる。これから子どもと一緒に学び続ける。



《成長に関われる喜び》

教育学科 瀬古 うた

私は小学校のころから先生という職業に憧れを持っていました。しかし、いざボランティアで先生としての立場に立ってみると、子どもたちとの関わり方や先生の忙しさなど、この職業の難しさを目の当たりにしました。それでも先週できていなかった九九が言えるようになったり、「先生ありがとう」といわれたりすると、やってよかった、これからも子どもたちの成長に関わっていたいと思います。まだまだ未熟ですが、子どもが自分の成長に気づき、喜ぶことができる先生になりたいです。

《やりがいこそがモチベーション》

教育学科 山本 達也

将来は子どもと関わる職業に就きたいと小さな頃から考えていた。「先生」には面白くて子どもたちが寄ってくるような理想像があった。いざ教育学部で学び、学校ボランティアなどを通して、実際に子どもたちと触れ合うことで、難しさ、大変さを痛感した。しかし大変さの中にあるやりがいや喜びも知った。このやりがいこそが、今の私のモチベーションである。しっかりとした指導をする。将来に必要な人材の教育を行う。これが私の目指す教師像である。

《子どもが主体的に取り組める授業づくり》

教育学科 杉森 七夕

高校2年の夏、「先生が向いていると思うよ」という友人の何気ない一言と、当時の対人関係で悩み苦しむ私を支えてくださった小学校6年生の担任の先生への憧れから教職を目指した。大学へ進学し、小学校教育の関心はますます広がり、1回生から行っているボランティア活動で、子どもと関わる楽しさと未来を担う子どもが成長する喜びを感じることができた。これこそが教師のやりがいであり、卒業後必ず教壇に立つと決意した。

私は、子どもたちが、学ぶことは楽しい、面白いと感じ、主体的に取り組めるような授業づくりができる先生になりたい。そのためにも今、仲間と共に追究を目指す。

《子どもに対応できる先生に》

教育学科 佐竹 優衣香

私は人に教えることが好きという単純な理由から教師を目指すことにした。始めは「教師になるのかな」くらいの気持ちであったが、学生ボランティアとして小学校に行くようになってからは「絶対に教師になりたい」という気持ちに変わっていった。低学年の子どもに言いたいことがうまく伝わらないことや、なかなか注意を聞いてもらえず、どうすればよいのだろうか悩むことも多かったが、説明の仕方や注意の仕方を変えて子どもにわかってもらえた時の喜びを知った。教師という仕事は大変な分、喜びや達成感も大きいやりがいのある仕事であると気づいた。

私は、子ども一人一人に合わせた対応ができる教師になりたいと思う。



教員採用選考試験に向けて

教師を目指す3年生のみなさん、コロナ禍で世の中全体がまだ大変な状況ですが、来年の教員採用選考試験(教採)まで9か月を切りました。計画立てた学習、自分の課題に即した学習を進められていますか?この時期は、意欲と自分のビジョンを持って、その『ビジョンに向けての行動』が必要です。その道のりは、決して甘くはありません。さあ!今から本気を出して、歩みだしましょう。仲間と刺激し合いながら、自分をしっかり見つめて、力をつけていってください。支援センターでは、セミナー、説明会、講習会等を計画しています。積極的な参加を待っています。相談も毎日、受け付けています。教採のこと、学校ボランティアのこと等、遠慮なくアドバイザーに相談してください。

教採合格を目指した講習会

論作文短期セミナー (全5回 - 無料)



下記の日程で、昼休みの30分間を利用して3年生を対象とした「論作文」のセミナーを開きます。教採では、「人物重視」と言われており、「面接試験」と同じように人間性を判断する資料として多くの自治体で「論作文試験」が実施されています。文づくりの苦手な人、表現力をつけたい人、論作文対策をしっかりしたい人等、たくさん参加してください。

このセミナーでは、書いて自分を表現することを学習します。セミナーを出発点に、「課題をもらい」→「書く」→「添削」を重ねます。その繰り返しで、自分を見つめ直したり、自分の考えをまとめたりすることに役立ち、面接試験にも活用できます。受験する自治体に「論作文」試験が含まれていない人にも役立つのがこのセミナーです。

- 第1回(11/11 水) 講義(論作文の必要性和論作文の評価方法について)
 - 第2回(11/18 水) 演習(三部構成で書く)
 - 第3回(11/25 水) 演習(テーマに即して論の展開をする)
 - 第4回(12/2 水) 演習(一文が長くなりすぎないようにする)
 - 第5回(12/9 水) 演習(キーワードを文中に入れ、説明する)
- いずれも 12:20~12:50

論作文対策は、一人ではできません。人に見てもらい添削を受けることによって、自分の考えを人に解りやすく表現できるようになるのです。書いて上達するのです。全5回ですが、参加できる回だけでもかまいません。

みなさんの積極的な参加を待っています。

※ 申込不要、服装自由

